食を通じて九州を元気に

フーズ・コミュニケーション

岩田産業

農業の生産現場で学ぶ

岩田 章正 取締役社長執行役員兼COO
J.S.A.ソムリエ
フランスチーズ鑑評騎士の会 シュヴァリエ

――45周年時に社長に就任されて、10年が経過しました。そこについて、いかがでしょうか。

岩田社長 長時間労働が当たり前のように続いていた時代でしたが、「社員さんが健康で、家族との時間を大切にしながら、また誇りをもって楽しく働ける会社でなければ、企業の成長は続かない」と強く感じていました。経営指針「理念は戦略に勝る」や「盛和塾」での学びをベースに、残業時間の削減、年間9日間の休日増加、8回にわたる給与改定による処遇改善、インナーブランディングの強化を図りながら、アウターブランディングの取り組みも進めました。グループ全体で努力を重ねてきたからこそ、働き方改革も進み、組織として大きく前進できました。

――近年の動向について。特にコロナ禍を契機に広がった新規事業や新たな取り組みに関しては。

岩田社長 新規事業は、お客さまの課題解決のお手伝いにつながり一定の利益を生み出せる段階に成長しました。ロボットの活用や受発注のシステム化、スマレジの導入、運行事業など、食材販売以外にもお客さまへ提供できるソリューションが増えています。

また、SDGsアイデアコンテストは今年で3回目となります。食品卸売企業としてのあるべき姿を追求する中で、SDGsの取り組みが広がってきました。食品流通業として九州・山口の〝食〟を支える事業は、もともとSDGsの多くのゴールに深く関わっています。

SDGsの実践は、当社にとって持続可能な経営戦略そのものであり、社会とともに成長していくための道筋です。SDGsを単なる「CSR（企業の社会的責任）」ではなく、「CSV（共通価値の創造）」へと発展させ、企業の持続可能性と競争優位性を高めていきたいと考えています。

――コロナ禍からV字回復してきた過程を、詳しくお聞かせいただけますか。

岩田社長 コロナ禍は、業界全体に「直撃弾」でした。売上げは落ち込み、先の見えない不安が続きました。社内で侃々諤々（かんかんがくがく）と意見を戦わす日々が続き、もがき苦しみました。ただ逆境時にこそ真価が問われます。志高く明るい未来を描き、事業再構築、新規事業に挑戦し続けました。それがコロナ禍後に花開き、過去最高の売上げ・利益を達成できました。厳しい状況を全社員で共に乗り越えた。だからこそ、グループとして「結束力と絆」を手にできたことが「コロナ禍」の学びと思えるようになりました。

社員一人一人の提案力向上

「ゆう美果樹園」を営む支援先の柿農家

また、営業社員一人一人の提案力が向上しています。企業理念をベースに社内研修を行い、週刊販促、週刊での定期的な学びで、幅広い提案ができるようになり成果として表れています。

課外部活動的に「食」を深く研究し知識を極めていく「KIWAMETAI（極め隊）」を17チームつくりました。面白いアイデアも多くありました。今期はさらに多くのチームをつくる予定です。

――グループ連携で力を入れられていることは。

岩田社長 2025年にグループ営業連携本部を新設しました。食材と酒類のペアリングなどを強化しています。酒類メーカーさま・食品メーカーさまと知恵を出し合いながら新たな取り組みを行い、幅広いお得意先さまの売上げアップにつなげていきます。食材と酒類の両方の提案内容を磨いていくことが当社グループの武器の一つだと思います。

――貴グループでは、1次産業に対して非常に高い意識で向き合われていますね。柿農家支援の取り組みも特徴的です。

岩田社長 岩田産業グループでは、飲食店の人手不足を解消する「タイミー事業」に加え、農業分野の人手不足という社会課題に向き合うため、携帯アプリ「農How」の事業にも取り組んでいます。これらの活動は、食材供給という自社の事業基盤を守るだけでなく、社員の意識向上や地域との信頼関係づくりにもつながり、「CSV」の実践であると考えています。

「農How」は、農家と働き手（クルー）をつなぐマッチングアプリです。その普及提案に取り組む中で、社員は農家側とクルー側の両方の立場を、実際の作業体験を通じて理解しています。近隣で担い手が不足していた柿農家のお手伝いを始めたことが、会社として農業支援に本格的に取り組むきっかけとなりました。活動開始から2年目となる2024年には、社員53人が全生産工程に合計1680時間を費やしました。25年には、42本の富有柿の木から約9000個を収穫し、そのうち6000個を飲食店のお客さまへ販売しました。

社員に感じてもらいたいのは、生産をすることの大変さを体験することで、お金を払えば商品を買えるのではないということ。私たちが取り扱う商品は、生産者の方、加工業者の方、メーカーの方のたゆまぬ汗と努力の結晶、その思いや生産するストーリーを私たちがユーザーの方に語ることのできるストーリー・テラーになってほしいと考えています。

――今後、グループ全体で大事にしていきたいテーマは。

岩田社長 目指す姿に到達するためには、三つの力「逆算力」「順算力」「逆境力」を大事にしていきたいです。

まずは「逆算力」ですが、これはゴールを明確に描き、必要な行動を積み上げる力です。二つめの「順算力」は、簡単に言えば走りながら考え対応する力。どれだけ綿密に計画しても、コロナ禍、自然災害など予想外のことが起きます。その時に状況を受け止め、柔軟に対応し、最適な一手を選び続ける力が必要です。最後に「逆境力」です。「逆境や壁」は私たちを苦しめるためにあるのではない。次のステージに押し上げるために存在する。そう確信しています。だからこそ、真正面から向き合い乗り越えていく。その経験こそが、個人を強くし組織を成長させます。逆算力で道を描き、順算力で進み、逆境力で強くなる。三つの力を磨き続ければ、描くゴールに到達できると信じています。

2026 春夏フードフェア

食材 酒類 相乗効果を追求

「グループ連携プロジェクト」ブースで提案したノンアル商品の組み合わせ

岩田産業グループが2月25日にマリンメッセ福岡A館で開催した「2026春夏フードフェア」では、食材と酒類の組み合わせ提案によってグループ連携の相乗効果を追求した。幅広いカテゴリーを網羅する岩田産業グループのオリジナルブランド食材「TURTLE WIN」では九州産原料も使用し大きな強みになっている。

数多くの「TURTLE WIN」商品を紹介

SDGsアイデアコンテスト

若年世代の教育に生きる

食ビジネスに新たな発想を

コンテストでのプレゼンテーション（写真は2025年開催時）

杉本宏幸教授

岩田産業グループ主催の「SDGsアイデアコンテスト」では、九州産食材の地産地消やフードロス解消など、食に関するビジネスアイデアを公募する。部門は「外食産業・中食産業」「専門学校・大学生」「高校生」の三つで、ファイナリストは「秋冬フードフェア」でプレゼンを行い、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、特別賞が選ばれる。福岡大学・杉本宏幸教授のゼミからは第1回と第2回に学生が参加した。

杉本ゼミは流通やマーケティングが専門。コンテスト参加に当たり、学生には「マーケティングの観点を取り入れること」「岩田産業グループの事業に活かせる提案にすること」の2点を重視し、それ以外は学生の主体性を尊重した。2024年は「子供達の野菜の好き嫌いをなくす」が最優秀賞、「規格外品は捨てずに利用!」が優秀賞を受賞。最優秀賞案は、子どもたちが野菜収穫を体験し、収穫物を「ピザクック」に持ち込みピザづくりをするという内容だった。2025年は「八百満点災害食」が最優秀賞に選ばれた。災害時の防災食は栄養が偏りやすい点に着目し、水で戻す五目ご飯やそのまま食べられる野菜チップスなどを考案した。

杉本教授はコンテスト参加を振り返り、「学生にとって特に貴重なのは『フードフェア』でのプレゼン経験だ。商談が行われる会場で自分たちのアイデアを発表でき、他大学や専門学校の学生の考え方にも触れられる。高校生の柔軟な発想や、外食・中食部門の完成度の高い提案も刺激になる。プレゼンは『元気に伝える』をモットーに、動画で話し方を確認しながら練習を重ねた」とコメントしている。

株式会社大冷
チェスコ株式会社
株式会社中冷
テーオー食品株式会社
テーブルマーク株式会社
天狗缶詰株式会社 福岡営業所
東亜商事株式会社
堂本食品株式会社
東洋水産株式会社
株式会社トクスイコーポレーション
日欧商事株式会社
株式会社ニチレイフーズ 九州支社
株式会社日清製粉ウェルナ
株式会社ニッスイ 九州支社
日東ベスト株式会社
株式会社ニップン
ネスレ日本株式会社 営業本部 アウトオブホーム営業統括部
株式会社ノースイ
ハウスギャバン株式会社
はごろもフーズ株式会社
八洋食品株式会社
株式会社八ちゃん堂
ハナマルキ株式会社
ヒガシマル醤油株式会社
福留ハム株式会社
富士通商株式会社
プリマハム株式会社
ブルドックソース株式会社
株式会社ホクビー
マニハ食品株式会社 九州営業所
マリンフード株式会社
丸善食品工業株式会社
丸紅シーフーズ株式会社
丸松物産株式會社
マルヱ醤油株式会社
三島食品株式会社
三井物産流通グループ株式会社
株式会社Mizkan 九州エリア
三菱ケミカル株式会社 西日本支社
三菱商事ライフサイエンス株式会社
三菱食品株式会社
南日本酪農協同株式会社
京食品株式会社
株式会社明治
株式会社メモス
株式会社モリタン 九州営業所
森永乳業九州株式会社
守山乳業株式会社
モンテ物産株式会社
ヤマエグループホールディングス株式会社
株式会社ヤマ食
ヤマダイ食品株式会社
株式会社山福
株式会社ヤヨイサンフーズ
株式会社ヨコオフーズ
理研ビタミン株式会社
六甲バター株式会社
株式会社ロッテ